

第5学年学級活動学習指導案

指導期間 平成16年9月14日～10月8日 計8時間

場 所 教室・家庭科室

対 象 県内公立小学校 第5学年1学級 (36名)

指 導 者 川 村 江 美

1 単元名 「本格みたらしだんご作りに挑戦しよう！」

2 単元設定の理由

軽度発達障害児と周囲の児童とが学級の中で互いに居心地よく感じ、個性を發揮しながら成長していくためには、軽度発達障害児と周囲の児童との安定したよりよい関係づくりが基盤となる。軽度発達障害のあるA児は、集団活動やグループ活動、遊びなど学級での集団生活に少しずつ慣れてきている。しかし、こだわりが強く、相手の気持ちを理解できずに自分の思いつきで行動してしまうため、友達との関係でうまくいかないこともまだ多い。周囲の児童は、A児の行動に大分慣れ、静かに見守れる児童も多くなってきている。しかし、A児とのかかわり方で戸惑ったり、他の友達とうまく関係を結べなかつたりする児童もいることから、A児を含めた学級の児童に人とのかかわり方について集団の中であらためて学ばせ、身に付けさせていく必要があると考え、人とのかかわり方について具体的に学ぶことができるソーシャルスキルを学級の中で一緒に指導することにした。

本単元では、児童に人との具体的なかかわり方を身に付けさせるために、生活の場面に即した実態調査から「聞き方」、「頼み方」、「あたたかい言葉がけ」等のソーシャルスキルを設定した。そして、A児が喜んで参加できるという観点から、「みたらしだんご作り」という実際の活動場面を各授業の展開の中に設定し、学んだそれぞれのソーシャルスキルをすぐに生かせるようにした。このことにより、学んだスキルを具体的な場で使うことで定着を図ることと、ソーシャルスキルを学ぶ目的意識と意欲を持続させることをねらいたい。

指導に当たっては、ソーシャルスキルの学習により、学級の児童全員に人とのかかわり方の大切さについてあらためて考えさせたい。そのために、それぞれのスキルの意義と使い方を児童に分かり易く提示できるような指導の手だてを工夫していきたい。そして、学習したスキルを使って一緒に活動する中で、人とのかかわり方を具体的に身に付けさせ、互いの気持ちを考え助け合って活動しようという気持ちを高めていきたい。また、A児には学級の中で周囲の児童と一緒に学び活動できるよう、学習の見通しをもたせたり、ほめてやる気をもたせたりすることを大切にしたい支援も行っていきたい。

3 単元目標

(1) 全体目標

ア 自分たちの生活の中から、友達とのかかわりにおける問題点を明らかにし、そのよりよい対処の仕方を学ぶ。

イ 学んだソーシャルスキルを「みたらしだんご作り」の活動の中で使いながら、実際の場面でのスキルの使い方を理解し、グループで協力して活動するよさを味わう。

(2) A児の目標

ア 人にものを頼んだり、人から物を借りたりするときの話し方が分かる。

イ 友達とかかわり合いながら、一緒に活動することができる。

4 指導計画

(全8時間)

授 業 の 流 れ				
ねらい	授 業 前 半		授 業 後 半	
	学習するソーシャルスキル		「みたらしだんご作り」の活動	
次	自分たちの生活の場面で、実際に困っていることを中心に、そのよりよい対処の仕方を学ぶ		学んだソーシャルスキルを実際の場面で活用し、グループで協力して活動する力を養う	
	指導のねらい	主な学習内容及び学習活動	指導のねらい	主な学習内容及び学習活動
第1次 1時間	友だちとのかかわりに関する問題点を確認しソーシャルスキルの目的を知らせる	オリエンテーション 「ソーシャルスキルって何？」 1 友だちとのかかわりに関するアンケートをもとに、問題と思われることを明らかにする 2 ソーシャルスキルの目的とこの単元での進め方を理解する	だんご作りの意義とねらいをつかませ、各時間の計画について見通しをもたせる	オリエンテーション 「みたらしだんご作りをしよう」 3 だんご作りの意義とめあてを理解する 4 だんご作りの各時間の計画を知る
第2次 1時間	人の話に注意深く耳を傾ける大切さに気づき、聞くという行為を意識的に行うスキルを身に付けさせる	話の聞き方 「いい聞き方ってどんな聞き方」 1 二つの聞き方を比べ、いい聞き方のルールを確認する 2 聞き方のルールを意識しながらいい聞き方を練習する	いい聞き方のスキルを使って説明を聞かせ、みたらしだんごの作り方の流れを理解させる	作り方の説明 「作り方の説明を聞こう」 3 みたらしだんごの作り方の説明を聞く
第3次 1時間	友達のいいところ、得意なところを見付け、人にはさまざまないいところがあることに気付かせる	いいところ見つけ 「友達のいいところを見つけよう」 1 班の友達のいいところをカードに書いて交換する 2 自分がもらったカードを見て、感じたことを話し合う	各自の得意不得意を考えながら、班ごとにだんご作りの役割分担をさせる	役割分担 「各仕事のリーダーを決めよう」 3 だんご作りに必要な仕事と分担の仕方を確認する 4 班ごとにそれぞれの仕事のリーダーを話し合って決める
第4次 2時間	相手の気持ちや立場を尊重した他者への依頼の仕方を考えさせる	丁寧な頼み方 「ていねいな頼み方を考えよう」 1 どんな頼み方が良いのか話し合う 2 気持ちよく引き受けてもらうために大切な三つのことを確認する	リーダー会議で、班の人に教えられるように仕事の手順やコツを身に付けさせる	練習 「リーダー会議で作り方を覚えよう」 3 各班から、同じ仕事のリーダー同士が集まり、自分たちの仕事の手順を確認する 4 作り方の手順やポイントを聞き、練習しながらコツをつかむ
第5次 3時間	「ほめる」「励ます」「感謝する」などのあたたかい言葉かけについて考えさせる	あたたかい言葉がけ 「あたたかい言葉について考えよう」 1 あたたかい言葉とは何かを知る 2 あたたかい言葉を使って実際に友達に言う	班毎に、協力して作業を進め、成果を味わい、お互いのいいところを認め合わせる	だんご作りと試食 「みんなで作って食べよう」 3 班ごとに、各仕事のリーダーを中心にみんなでだんご作りをする 4 試食し、うまくてきたところや感想を話し合う

5 各次の指導

(1) 第1次の指導

ア 目標

(ア) 全体目標

友達とのかかわりで困っていることを知り、問題意識をもつことができる。
 ソーシャルスキルの意味と目的を理解し、単元のおおよその計画を知ることができる。

(イ) A児の目標

静かに話を聞くことができる。
 ふり返りカードの書き方が分かる。

イ 展開

段階 (分)	学習活動	指導上の留意点	A児への配慮 T:担任 S:サポートの教師	*準備物
導入 つかむ (10)	1 友達とのかかわりに関するアンケート結果を基に、学級で困っていることの確認をする	<ul style="list-style-type: none"> 結果を予想させた後、グラフを提示し、事例を紹介する。 グラフを見て話し合うことにより、自分たちの生活を振り返り、学級の問題としてとらえられるようにする。 個人的な話題にならないように留意する。 	T:授業について授業前に予告し、気持ちの切り替えを図る。	*アンケート結果のグラフ
展開 学ぶ 開 (15)	2 ソーシャルスキルの意味と目的を理解する	<ul style="list-style-type: none"> 「ソーシャルスキル」の紙板書を提示し、分かりやすい言葉で簡潔に説明する。 自分たちの困っていることを改善するためという意識をもたせ、学ぶ動機付けをする。 	S:個別のプリントに書き込ませながら注意の集中を図る。	*「ソーシャルスキル」(紙板書)
	3 単元の進め方を確認する	<ul style="list-style-type: none"> 単元計画表を提示しながら、授業の回数や学習する事柄を確認させ、学習への見通しをもたせる。 		*単元計画表
やってみる (12)	4 「みたらしだんご作り」の意義とめあてについて理解する	<ul style="list-style-type: none"> だんご作りに興味関心と期待をもたせると共に、学んだソーシャルスキルを生かした活動であることに触れ、活動の目的を明確にさせる。 	T:A児の興味のある話題であることに着目させ、指名して話をさせる。	*単元の計画プリント
	5 「みたらしだんご作り」の各時間のおおよその計画を知る	<ul style="list-style-type: none"> 計画プリントを配布し、「みたらしだんご作り」の活動の流れを説明し、全体の見通しをもたせる。 		
終 ふり返る (5)	6 ふり返りカードに本時の学習で分かったことや感想を書く	<ul style="list-style-type: none"> 板書を振り返りながら、ふり返りカードにソーシャルスキルについてまとめさせ、新しい学習に対する感想を書かせる。 	S:ふり返りカードの書き方について、モデルを示すようにする。	*ふり返りカード
末 まとめる (3)	7 本時の授業のまとめをし、次時の予告を聞く	<ul style="list-style-type: none"> 次時の予定を計画表で確認し、学習への期待をもたせる。 	T:本時の学習でよかった点をほめ、次時の学習への期待をもたせる。	

ウ 評価

(ア) 全体

アンケート結果を基に学級の問題について話し合うことができたか。
 ソーシャルスキルの意味が理解できたか。

(イ) A児

「学ぶ」の学習過程で、15分間静かにプリントに取り組むことができたか。
 ふり返りカードに本時の感想が書くことができたか。

(2) 第2次の指導

ア 目標

(ア) 全体目標

いい聞き方をする大切さが分かり、聞き方の三つのルールを理解することができる。
 いい聞き方のスキルを使って「みたらしだんご」の作り方の説明を聞くことができる。

(イ) A児の目標

友達と一緒に聞き方のソーシャルスキルの練習をすることができる。
 最後まで「みたらしだんごの作り方」の説明を聞くことができる。

イ 展開

段階 (分)	学習活動	指導上の留意点	A児への配慮 T:担任 S:サポートの教師	*準備物
導入 (5)	1 本時のめあてを確認する いい聞き方ってどんな聞き方だろう	・計画表で本時の学習内容を確認させる。	S:机上の整理をさせ、席に着くよう促す。 T:本時のめあてをみんなと一緒に読ませ、学習への構えをつくる。	*計画表 *めあての紙板書
	2 今までの経験を基に、いい聞き方について話し合う。	・話し合いをする中で、自分の聞き方を振り返らせる。		
展 学 ぶ (20)	3 「いい聞き方」と「悪い聞き方」を見て、違いを比べる	・一人の児童に話をしてもらい、教師が聞く役をし、よいモデルと悪いモデルを示す。 ・相手の聞き方による話す側の気持ちの違いにも触れながら、気が付いたことについて話し合わせる。	T:挙手してから話すよう促す。	
	4 いい聞き方のルールを確認する	・話し合いを基に、話を聞くときの大事なことにまとめて、紙板書で提示する。		*紙板書 体を向ける 話す人を見る 相づちを打つ
	5 いい聞き方のルールを意識しながら、二人一組で練習する	・話す役と聞く役を隣同士で交代しながら練習させる。	S:一緒に練習する。	
開 や っ て み る (12)	6 「みたらしだんご」の作り方の説明を聞く みたらしだんごの作り方を教わろう	・「作り方の表」を基に、作り方のおよその流れをつかませる。 ・次時からの活動に生かせるよう、材料・道具や役割分担を書き込める「作り方プリント」を配布する。 ・聞き方のスキルを意識しながら聞いている児童をほめ、学習したスキルを使う意欲をもたせるようにする。	T:全体の説明の中で、絵や図を指し示しながら注目していることを確認し、ポイントを分かりやすく説明する。	*作り方の表 *作り方プリント
終 り 返 る (5)	7 ふり返りカードに、本時の学習で分かったことや感想を書く	・板書やプリントを手がかりに本時の学習を振り返り、感想をまとめさせる。	T:いい聞き方をしていたことを具体的に取り上げ、頑張っていた点をほめる。	*ふり返りカード
末 ま と め る (3)	8 本時の授業のまとめをし、次時の予告を聞く	・学習したソーシャルスキルを日常生活の中で活用していくように促す。 ・計画表を見ながら次時の予定を確認する。	T:計画表を基に、これからの学習について見通しをもたせる。	

ウ 評価

(ア) 全体

いい聞き方の三つのルールを取り入れて練習することができたか。
 聞き方のスキルを使って最後まで説明を聞くことができたか。

(イ) A児

聞き方のスキルを意識しながら友達と一緒に練習することができたか。
 作り方の表を見ながら最後まで説明を聞くことができたか。

(3) 第3次の指導

ア 目標

(ア) 全体目標

友達のいいところを見付け、人にはさまざまないいところがあることに気付くことができる。
各自の得意不得意を考えながら、班ごとに「みたらしだんご」作りの役割分担をすることができる。

(イ) A児の目標

友達のいいところをカードに書くことができる。
班の話し合い活動に参加することができる。

イ 展開

段階 (分)	学習活動	指導上の留意点	A児への配慮 T:担任 S:サポートの教師	*準備物
導入 (3)	1 本時のめあてを確認する 友だちのいいところを見つけよう	・計画表で確認しながら、本時のめあてを紙板書で提示し、学習することをつかませる。	T:席に座ること、片付けることどちらかができていたらほめる。	*めあての紙板書
展 開 (19)	2 班の友だちのいいところをカードに書く 3 発表し、どんなところに注目すればよいか話し合う 4 友達のいいところを基に、「みたらしだんご作り」の分担を考える 5 カードを交換し合い、もらってどんな気持ちになったか感想を述べる	・「いいところ見つけカード」を配布し、書き方を説明する。 ・さまざまな観点でいいところを見付けている児童に発表させ、いいところを見付ける観点を板書し、他の児童のヒントにさせる。 ・時間内に書ききれない児童には、次時まで書いてくるよう指示する。 ・書き終わった児童は、班以外の友達のいいところも書けるよう、予めカードを多めに用意する。 ・班の中でカードを交換し合って読ませ、2～3人に感想を発表させる。	S:書き方を示した後、集中して書いているときは見守り、書き終わるのを待つようにする。	*いいところ見つけカード (班の人数分)
展 開 (15)	6 「みたらしだんご作り」に必要な仕事の種類と分担の仕方を確認する 各仕事のリーダーを決めよう 7 班毎に、それぞれの仕事のリーダーを話し合って決める	・前時に配布した「作り方プリント」を基に、作り方や仕事を確認させる。 ・班会議の進め方を示し、友だちのいいところに着目して決めるなど、班での話し合いの仕方を確認させる。 ・話し合いの仕方の上手な班をほめ、話し合いの仕方の手本にさせる。	T: A児も話し合いに参加できるように、班の児童にさそうように促す。	*作り方の表 (前時で使用) *作り方プリント (配布済み)
終 末 (5)	8 ふり返しカードに本時の学習を自己評価し感想を書く	・時間があるときは、何人かに感想を発表させる。	T:班での話し合いなど頑張ったところをみんなの前でほめる。	*ふり返しカード
末 (3)	9 本時の授業のまとめをし、次時の予告を聞く	・カードは第5次でも使うので、一旦回収する。 ・カードを余分に用意しておき、日常生活の中でも活用できるようにする。 ・計画表を見ながら次時の予定を確認する。		

ウ 評価

(ア) 全体

班の友達についてそれぞれのいいところをカードに書くことができたか。
友達のいいところを基に班で話し合って、各仕事のリーダーを決めることができたか。

(イ) A児

班の友達のいいところをカードに書くことができたか。
友達の話を聞いたり自分の意見を述べたりして、班の話し合いに参加できたか。

(4) 第4次の指導

ア 目標

(ア) 全体目標

相手の気持ちを考えた丁寧な頼み方ができる。
リーダー会議で、班の人に教えられるように仕事の手順やコツを身に付けることができる。

(イ) A児の目標

手を挙げてから発言できる。
習ったスキルを使って、丁寧に頼むことができる。

イ 展開

段階 (分)	学習活動	指導上の留意点	A児への配慮 T:担任 S:サポートの教師	*準備物
導入 (5)	1 前時までのスキルを確認する 2 本時のめあてを確認する ていねいなたのみ方を考えよう	・前時までの紙板書等から学習したスキルを確認させ、日常で使っている児童を紹介する。 ・計画表で本時のめあてと学習内容を確認する。 ・人にものを頼むときに困った経験を想起させ、スキルの必要性を感じ取らせる。	T:意欲を高めるよう、本時のめあてを読ませるなどして発言を促す。	*めあての紙板書
展 (22)	3 ワークシートの場面を見て、頼み方を考える 4 気持ちよく引き受けってもらうために大切な三つのことを確認する	・自分ならなんと言ったら頼むかという視点で書かせて発表させ、大事なことをまとめていく。 ・紙板書で次の三つのことをまとめる。 頼むときのあいさつ 頼みごとをしなければならぬ理由 具体的な頼みごと ・教師がモデルになり、三つの要素を入れて頼んでみる。 ・頼み方によって、頼まれた側の気持ちも違うことに気付かせたい。	T:挙手してから話すように促す。	*ワークシート *三つの事項の紙板書
開 (55)	リーダー会議で自分の仕事を覚えよう 5 各仕事のリーダー毎に集まり、使う材料や道具を確認する 6 作り方の手順やポイントを聞き、練習してコツをつかむ	・家庭科室で、実際の材料を使って量や質感をとらえさせると共に、道具や設備の確認も併せて行う。 ・自分たちで作り方表を見ながら確認し、ワークシートに書き込めるようにする。 ・教師が各リーダーのテーブルを回りながら作り方のポイントを説明する。 ・「頼み方」のスキルを使い、互いに助け合って作業を進めるよう声をかける。 ・作り方で学んだことを班で作るときに生かせるよう、説明の仕方や頼み方も考えさせたい。	S:勝手に道具類をさわらないように注意する。 T:一人だけでやろうとしないで、友達と交替してするように促す。	*作り方表(前時で提示) *リーダー会議用ワークシート *作り方プリント(配布済み)
終 (5)	7 ふり返しカードに本時の学習の自己評価と感想を書く	・時間があるときは、何人かに発表させる。	T:机間指導しながら活動で頑張ったことをほめる。	*ふり返しカード
末 (3)	8 本時の授業のまとめをし、次時の予告を聞く	・学んだソーシャルスキルを実際の生活の中でも使ってみよう促す。 ・学んだことをもとに、自分の受け持った仕事の説明や頼み方を練習してくるよう話す。 ・次時の調理実習に必要な物を確認する。		

ウ 評価

(ア) 全体

頼み方の三つの要素が分かり、頼み方を考えてワークシートに書くことができたか。
仕事の手順や材料など必要なことをメモし、大事なことを伝える準備ができたか。

(イ) A児

勝手に話さないで、挙手してから発言することができたか。
活動の中で、友達に断ってから物を借りることができたか。

(5) 第5次の指導

ア 目標

(ア) 全体目標

「ほめる」「励ます」「感謝する」などのあたたかい言葉がけを考えることができる。
 班ごとに、それぞれの仕事のリーダーを中心に協力して作業を進めることができる。

(イ) A児の目標

友達と一緒にあたたかい言葉がけの練習ができる。
 班の友達と一緒に「みたらしだんご作り」の活動ができる。

イ 展開

段階 (分)	学習活動	指導上の留意点	A児への配慮 T:担任 S:サポートの教師	*準備物
導入 (5)	1 今まで学習したスキルを振り返る 2 本時のめあてを確認する <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin: 5px auto;">あたたかい言葉について考えよう</div>	<ul style="list-style-type: none"> 今まで学習した紙板書を見てふり回り、日常で使っている場面を紹介したりする。 計画表で本時のめあてと学習内容を確認し、めあての紙板書を提示する。 	S:本時の学習の順番を確認させ、筆記用具以外はしまっておくよう指示する。	*めあての紙板書
展 ぶ (20)	3 あたたかい言葉とは何かを話し合う 4 あたたかい言葉を使って実際に友だちに言ってみる	<ul style="list-style-type: none"> 例を挙げながら、あたたかい言葉とはどんな言葉かを考えさせる。 場面やその人の様子によって言葉のかけ方が違うことに気付かせ、具体的にどのような言葉をかけたらよいか話し合わせる。 児童から出された具体的な言葉を表に書き込み、あたたかい言葉を紙板書にまとめて掲示しておくようにする。 「いいところ見つけカード」を基に、あたたかい言葉を付け加えて二人組で練習させる。 教師が例を示しながら言い方を確認させる。 言われてどんな気持ちだったか感想を述べさせ、良さに気付かせたい。 だんご作りの活動で、使えそうなあたたかい言葉を確認し、進んで使うことを意識させる。 	T:発表のルールや聞き方のルールを守っていることをほめる。 T:二人組の活動に相手を見て取り組むよう声をかける。	*あたたかい言葉の表 *いいところ見つけカード(第3次で作成したもの)
開 き (100)	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin: 5px auto;">みんなで協力しておいしいだんごを作ろう</div> 5 毎日に、協力してだんご作りをする (70分) 6 試食し、うまうまできたところや感想を話し合う (30分)	<ul style="list-style-type: none"> リーダー会議で学んだことを生かし、各仕事のリーダーを中心に声をかけ合いながら自分たちで活動できるようにさせたい。 「頼み方」や「あたたかい言葉がけ」のスキルを使いながら互いに声をかけ合って作業を進めるように促す。 互いに良さや頑張りを認め合えるようにする。 後始末まで協力して行わせる。 	T:班から離れずにみんなと一緒に活動するよう、声をかけ励ます。 S:後始末までみんななどできるよう一緒に取り組む。	*作り方表(前時で提示)
終 末 (5)	7 ふり回りカードに自己評価と感想を書く 8 本時の授業と、これまでの学習のまとめをする	<ul style="list-style-type: none"> あたたかい言葉を使った感想を発表させ、使うことの良さを感じ取らせたい。 ソーシャルスキルを使うことの良さに触れ、日常生活の中でも積極的に使っていこうという意欲をもたせる。 	T:落ち着いた活動を振り返り、丁寧に書いているところをほめる。 T:本時の学習活動で頑張ったところを具体的にほめる。	*ふり回りカード

ウ 評価

(ア) 全体

それぞれの場面で使えるあたたかい言葉がたくさんあることに気付くことができたか。
 今まで学習したスキルを使いながら、班で協力して作業を進めることができたか。

(イ) A児

あたたかい言葉を考えて、友達に使うことができたか。
 班の友達と助け合って、一緒に「みたらしだんご」を作ることができたか。